

2 普通科「総合的な探究の時間」での取組

普通科改革支援事業の実施に伴い、普通科の「総合的な探究の時間」においても地域や大学と連携した活動を実施している。ここでは、普通科における地域・大学と連携した活動を抜粋して記載する。

(1) 普通科1年生での「総合的な探究の時間」の取組 ※地域・大学等との連携授業のみ抜粋

① 福祉実践教室 (連携機関：あま市社会福祉協議会)

【日程】

No.	実施日	テーマ	実施内容
1	10月2日(木)	福祉とは何か考えよう (事前指導)	あま市社会福祉協議会提供の教材を用い、「福祉」とは何か、日常生活のさまざまな場面を思い出しながら考えるグループワークを実施する。
2	10月16日(木)	福祉実践教室(2時間)	講師の指導のもと、さまざまなハンディキャップをもつ方々の生活を疑似体験する。
3	10月23日(木)	福祉についての学びを共有しよう(事後指導)	福祉実践教室を通じて得た学びをグループ・クラスで共有する。

【目的】

地域の講師による講座及び体験学習の過程を通じて、生徒が「ふくし」を自分事として捉え、身近な生活での課題を発見する力(課題発見力)を育み、「共に生きる」ことの大切さや思いやりを学ぶ。

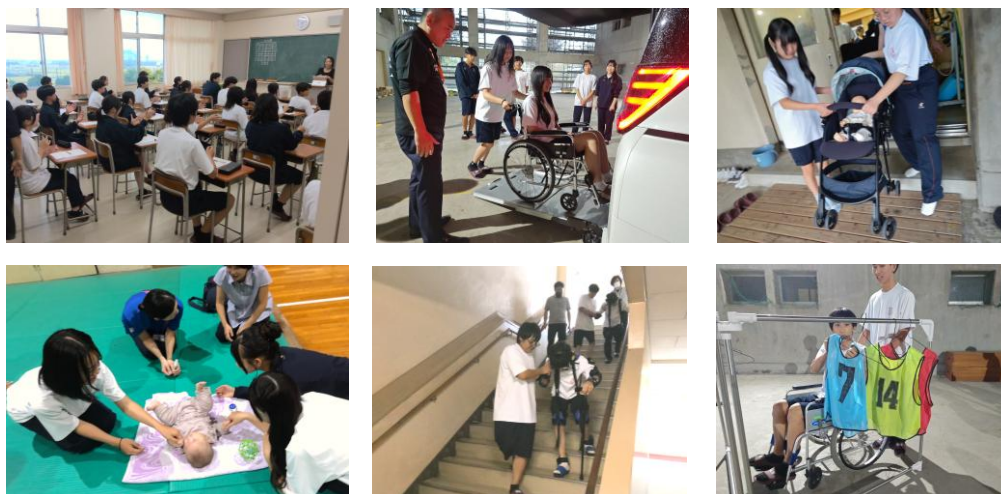
【内容】

事前学習と講座一覧をもとに、各自が興味をもった分野を選び、福祉実践教室へ参加する。福祉実践教室で学んだ内容については、事後にグループ・クラスで共有する。

【講座一覧(あま市社会福祉協議会より講師を派遣)】

講座名	講師	生徒	会場
手話	3名	30名	4B教室
点字	4名	20名	会議室
車いす	2名	20名	被服室(晴天時) 本館棟外周(雨天時) ピロティ
高齢者 疑似体験	2名	40名 (2名×20組)	視聴覚室
妊婦・育児 講座	2名	30名 (10名×3組)	武道場
ガイドヘルプ	2名	20名	図書室 第2閲覧室

【授業の様子】



【成果と課題】

昨年度同様、あま市社会福祉協議会の協力を得て、通常の福祉実践教室への講師派遣とともに、事前学習の教材提供と、事後学習の講師派遣にもご協力いただいた。車いす体験では、車いす利用者が実際に使用している福祉車両への乗り降りを体験したり、車いすに乗って洗濯物を取り込む体験をしたりなど、実生活をそのまま体験できるプログラムを組んでいただいた。また、高校生向けに開講いただいた妊婦・育児講座では、通常の妊婦体験や沐浴体験の他に、育児休業中の社会福祉協議会職員と乳児にもご参加いただき、実際に生徒と乳児が交流する場も設けていただいた。座学ではわからない実物を目の当たりにする体験を多くご提供いただいたことで、「ふくし」を自分ごととしてとらえるきっかけにできた生徒が多かった。

多岐に渡る講座を提供いただいたことで、学びが多かった反面、事前準備や物品の配置などが煩雑になる場面もあり、当日スタートに遅れが生じた講座もあった。スムーズな講座運営のため、事前の打ち合わせや会場の配置を工夫することが今後の課題である。

② 中学校訪問（連携機関：あま市立中学校・大治町立中学校）

【日程】

No.	実施予定日	内容	詳細
1	10月30日(木)	中学校訪問の目的を知ろう	中学校訪問の目的を理解する。探究活動の流れをふり返り、KJ法のやり方などを復習する。
2	11月6日(木)	各中学校の要望を知ろう 中学生からの質問の回答を考えよう	各中学校からの要望を理解する。中学生からの想定質問に対する各自の回答を考え、グループで共有する。
3	11月20日(木)	中学生へのアドバイスを再確認しよう 役割分担しよう	中学校別の訪問グループに分かれ、各クラスで出たアドバイスを共有する。中学校別の担当教員で、要望とのずれがないかを再度確認する。また、各グループで当日の役割分担をする。
4	12月4日(木)	シミュレーションしよう	中学校別の訪問グループに分かれ、シミュレーションする。
5	12月5日(金)	大治中学校・甚目寺南中学校訪問(1・2・4組)	1・2・4組の生徒で中学校を訪問し、「情報の収集」に関する授業を実践する。
6	12月11日(木)	甚目寺・七宝・七宝北・美和中学校訪問(1・3・5組)	1・3・5組の生徒で中学校を訪問し、「情報の収集」に関する授業を実践する。

【目的】

中学校でのキャリア教育の流れを踏まえ、中学2年生の2学期後半の「総合的な学習の時間」において、高校生が中学校を訪問し、中学生と対話型の探究活動を行うことを通じ、中学生の自己の進路決定に向けた疑問の解消や目標の設定につなげる。高校生は中学生との対話を通じ、以下に記載の「身に付けたい力」を育むことを目的とする。

【身に付けたい力】

ア 複数の中学生と対話することを通じ、コミュニケーション力を育成する。

(対話力・思いやり・豊かな人間性)

イ 対話に向けての準備を通じ、必要な情報を収集してまとめ、活用する力を身に付ける。

(課題発見力・情報活用力)

ウ 中学生と対話することで自己を振り返り、今後の進路や学校生活の目標設定につなげる。

(問題解決力・実践力)

【内容】 ※中学校訪問当日の内容

- ・高校生は、探究活動の流れと「情報の収集」のやり方についてプレゼンテーションを行う。
- ・中学生は「進路実現に向けて中学校2年生の後期をどう過ごすか」という課題に対し、情報を収集するため、高校生への質問を考える。
- ・中学生5～6人(1クラス8グループ程度)で高校生への質問内容を共有し、KJ法を用いて質問の優先順位を整理し、質問リストを作成する。高校生はグループ活動を補助する。
- ・中学生は質問リストをもとに、高校生にインタビューを実施する。高校生は中学生からの質問に回答するとともに、進路決定の際の自分の体験について話す。また、中学生時代を振り返ったアドバイス等を伝える。
- ・中学生は、収集した情報をもとに、後期をどう過ごすかを考え、考えをまとめる。

【授業の様子】

中学校訪問 当日の様子



【成果と課題】

高校生が中学生に「情報の収集」の方法を伝え、インタビューを実践する機会を提供する場として今回の授業を設計した。中学校訪問当日の授業については、地域探究科(1組)生徒が司会進行を担当し、普通科の生徒は中学生のグループワークの補助とともに、インタビューを受ける側の立場として授業に臨んだ。事前に想定される質問の回答を考えたり、中学生の動きを想定してどう補助するかを検討したりする中で、自分たちの探究活動を見つめ直す機会とすることができた。初めて人前で指導をする機会となった生徒も多く、当初は緊張した様子であったが、実際に中学生の前に立つことで年長者の自覚が芽生えたようであり、当日の授業では堂々と対応する生徒が多かった。高校生が前向きに中学生と関わろうとする様子に、中学校の先生方からお褒めの言葉を複数いただいた。

なお、中学校と高校のそれぞれの教員への事後アンケートには、以下の意見が挙げられた。

【アンケート結果】

高校教員

- まだまだ前に立つ経験や授業をすることに慣れておらず、中学生に迷惑をかけてしまう場面もあったかと思いますが、最後までやれることはやれたと感じています。
- もう少し中学生の気持ちになって寄り添いながらインタビューに答えられると良かったと感じた。
- 時間配分等に戸惑っている場面もありましたが、概ね頑張っていた。
- 表情も明るく上手く受け答えしていた。
- 見知っていない人と話す良い練習になった。
- 全員が中学生のために有効な情報発信ができるように積極的に活動に参加していた。
- 地域探究科の生徒は、2回目というのもありすごく堂々とやれていた。やはり、経験にまきるものはないと感じた。普通科の子は、ロイロノートの扱いに慣れておらずなかなかアドバイスができなかったが、インタビューはしっかり答えていた。

中学校教員

- とても親切に、親しみやすく接してくれていた。真剣に対応してくださっていた。
- 積極的に関わろうとしてくれていた。特に司会を務めた男子生徒はグループ活動中も意欲的に参加し、中学生を惹きつけていた。
- 初めの挨拶から質問対応まで、中学生に親身に寄り添ってくれる姿があった。司会進行と、実際に中学生の相手をする生徒と分かれており、一生懸命取り組んでいる様子が見られた。
- 一部高校生において、化粧や服装が中学生によくない影響を与えそうな気がしました。
- 高校1年生とは思えないほどしっかりされていて、真摯に対応していただいているのがわかりました。
- 中学生がワークシートに記入しているときに、高校生同士で雑談している時間があってザワザワしていました。
- 準備もしっかりしていただき、当日の活動も素晴らしかった
- 多くの高校生が中学生の目線になって話してくれており好印象だった。
- 高校生によって、質問への回答にバラつきがあったのが気になった。
- 最初は緊張していましたが、インタビューが始まるとしっかりと受け答えをしてくれていてとても頼もしかったです。司会の子達がとても上手で、堂々と話してくれたので助かりました。
- 静かにさせてから話し始めるように意識しているのが伝わりました。先生のような方でした。

③ 職業人講話 （連携機関：あま市商工会・あま市教育委員会等）

【日程】

No.	実施日	テーマ	実施内容
1	1月15日(木)	地域の職業人の話を聞こう	地域で活躍する職業人の話を聞き、「働くこと」の意味を理解し、自分の将来について考える。

【目的】

地域で活躍する職業人の講話を聞き、高校生である今、対応すべき課題を自ら発見する力を養うとともに、生徒自身の進路や将来を考える機会とする。

【内容】

講師一覧をもとに、各自が興味をもった業種を選び、講話を聞く。講話の内容についての質疑応答を実施し、講師の職業観や高校生へのアドバイス等を聞き取る。

【講師一覧（あま市商工会より派遣）】

	講師名（敬称略）	企業名	業種
1	松永 哲太	(株)河村産業所	製造業
2	武藤 泰之	(株)大源商店	シャッター工事
3	中村 彰宏	中村デジタル	コンサル業
4	大野 麻由	(有)藤井薬局	薬剤師
5	山田 真	(株)AUTO DOCTOR	自動車整備業
6	宮川 直大	あま市立甚目寺小学校	教員
7	木下 順弘	しあわせ・かき氷店	飲食店
8	堀 晴菜	正則保育園	保育士

【授業の様子】



【成果と課題】

例年講師をお願いしている、あま市商工会から5名の講師を派遣いただいた。また、今年度はコーディネーターの尽力とあま市教育委員会の協力により、小学校や保育園等からも講師を派遣いただくことができた。あま市商工会からの講師の所属の中には、普段高校生と関わりのない業務を行う企業も多く、これまで知らなかった業種や企業を知る良い機会となった。今回の講話を、自分たちの将来とこれからの高校生活をどう過ごしていくかを考えるきっかけとしたい。

④ 防災学習 （連携機関：自衛隊一宮地域事務所・県民事務所・海部東部消防組合）

【日程】

No.	実施予定日	テーマ	実施内容
1	1月22日(木)	防災について知る① ～学ぼう～	自衛隊一宮地域事務所の講師の講話を聞き、能登半島の被災地支援の状況や、あま地域の想定被害状況を学ぶ。
2	1月29日(木)	防災について知る② ～イメージしよう～	県民事務所提供の資料をもとに、災害が起きたときの状況や避難所の状況を想定し、自分ができることについて考える。
3	2月12日(木)	防災について知る③ ～体験しよう～	海部県民事務所の県民防災安全課の指導のもと、避難所運営ゲーム(HUG)を体験する。
4	2月26日(木)	防災について伝える① ～作りだそう～	これまでの学びをもとに、高校生ができる活動の一環として、防災を啓蒙するための防災川柳を考える。
5	3月5日(木)	防災について伝える② ～作りだそう～	各クラスで作成した防災川柳を共有し、優秀作品を決定する。最優秀作品は、海部東部消防組合へ報告する。

【目的】

いつどこで起きるかわからない災害に備え、地域の方々と連携をした防災の学習をすることで、災害の知識を修得し、今ある地域の課題に目を向け、積極的に周囲と関わり、課題を解決していくとする姿勢を身につける。

【内容】

実際に被災地支援をした講師の講話を聞き、防災への知見を深める。また、避難所運営ゲーム(HUG)の実施を通し、避難所運営の一部を体感する。その上で、地域の防災意識を高めるための防災川柳を考え、地域の消防組合へ作品を提供する。

【授業の様子】



なお、防災学習については当報告書作成時点において進行中であるため、完成版の川柳については後日本校ホームページ等での公開を予定している。

(2) 普通科2年生での「総合的な探究の時間」の取組 ※地域・大学等との連携授業のみ抜粋

①連携授業（中学校訪問）（連携機関：あま市立中学校・大治町立中学校）

【日程】

No.	実施予定日	テーマ	実施内容
1	6月16日(月)	・連携授業の目的を知ろう ・「思考ツール」について調べよう	・教員の話聞いて、「連携授業」の目的と今後の流れをおさえる。【連携授業についてまとめた動画を視聴する】 ・連携授業を共に行うメンバー内で自己紹介する。 ・「思考ツール」の活用目的を理解し、その種類別の特性を調べ、その結果を班内で共有する。
2	6月19日(木)	・バタフライチャートを活用して、自己分析しよう	・教師の「バタフライチャート」を活用した自己分析の話聞く。 ・「バタフライチャート」を活用して、自身の「得意なこと・長所等」、「苦手なこと・短所等」について自己分析する。 ・自己分析した結果を班内で共有する。
3	6月23日(月)	・連携授業に向けて準備しよう①	・連携授業当日の流れを改めておさえる。 ・当日の役割分担を決め、各自で発表の準備をする。
4	7月3日(木)	・連携授業に向けて準備しよう②	・連携授業に向け、自身の発表原稿、スライド等を準備する。
5	7月10日(木)	・連携授業の練習をしよう	・連携授業当日に向けて、発表の練習を行う。 ・当日に向けて、スケジュール等を確認する
6	7月11日(金)	・連携授業【当日】	・あま市の5中学校(甚目寺中学校、甚目寺南中学校、美和中学校、七宝北中学校、七宝中学校)、大治中学校へ訪問し、連携授業を行う。

【目的】

中学校3年生と美和高等学校2年生との連携授業を実践し、今後の円滑な中高連携教育につなげる。また、探究的な学びを促進する中高連携教育の一環として、探究活動における「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の中から、「整理・分析」「まとめ・表現」に係る活動を実施し、中学校3年生は3年間の探究活動をふり返り、高校2年生は今後の探究活動に活用していく。

【身に付けたい力】

(1) 中学校

ア バタフライチャートを活用し、自己PR文を作成することで、自己分析する力を養う。

イ 自己分析について高校生から聞いたり、高校生と交流したりすることを通して、自己を振り返り、今後の自己の生き方を考える。

(2) 高校生

ア バタフライチャートを活用し、自己PR文を作成することで、自己分析する力を養う。

イ 自己分析について中学生に伝えたり、中学生と交流したりすることを通して、自己をさらに振り返り、今後の自己の在り方生き方を考える。

【連携授業の内容】

①美和高等学校が作成した動画を見て、探究活動の流れを学ぶ。

②美和高等学校2年生から、バタフライチャートを活用した自己分析の手法を学ぶ。

③美和高等学校2年生の支援のもと、バタフライチャートを活用し、自己PR文を作成する。

【ワークシート】

1時間目

総合的な探究の時間（中高連携） 6月16日（月）LT
 2年（ ）組（ ）番 名前（ ）

1. 本日の「めあて」

2. 連携授業について
 日時：令和7年7月11日（金）美和高校5～6限目（中学校の6限目に連携授業）
 対象：美和高等学校2年生
 連携中学校（美和中、菟目寺中、菟目寺南中、七宝中、七宝北中、大治中）3年生
 目的：連携授業を行うことで、互いに高めあう。
 中学生は高校生から探究について学び、今後の探究活動につながる基礎を身につける。
 高校生は中学生に伝えることで、自身の探究活動を振り返り、今後の活動に生かす。

3. 7月11日（金）について
 ・美和高5限目、美和高で各中学校ごとに集まり、最終打合せを行う。
 ・バスに乗って各中学校へ向かう（七宝北中は徒歩で行く）。
 ・中学校の6時間目、総合的な学習の時間で、中学生に授業を行う。
 美和高2年生が中学校3年生に「総合的な学習の時間」で探究の授業を行う。
 ・授業内容は、「自己分析」。
 中学生が、自分の「長所」「短所」を分析して、自分自身を振り返ることができるようにサポートする。

4. 当日（7月11日）に向けたスケジュール
 ①6月16日（月）LT・・・連携授業について（動画視聴）&今後の流れを確認
 思考ツールについて調べる
 ②6月19日（木）総合・・・思考ツールを使用して自己分析
 ③6月23日（月）LT・・・中学校訪問の練習準備
 ④7月3日（木）総合・・・中学校訪問の練習
 ⑤7月10日（木）総合・・・中学校訪問練習+確認
 ⑥7月11日（金）中学校訪問当日 午後 中学校の時間割で6限目に訪問

5. 班員のメンバーを記入しましょう。

組	名前
組	
組	
組	
組	
組	
組	
組	

6. どのような思考ツールがあり、それぞれにどのような特徴があるかを班員で分担して調べてみよう。【裏面】

7. 調べたことを班内で共有しよう。

8. 何か調べたことをまとめて表現したりする時に、思考ツールを利用するとどのような利点があるのだろうか？

☆ふりかえり☆
 ・今日の授業の「めあて」を達成できましたか？
 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
 ・今日の授業で知ったこと、学んだことなどを書きましょう。

2年（ ）組（ ）番 名前（ ）

	ツール名	この思考ツールを使用してできること		ツール名	この思考ツールを使用してできること

4時間目

総合的な探究の時間（中高連携）【七宝中学校】7月3日（木）総合 2年（ ）組（ ）番 名前（ ）	
本日のめあて	
1. 連携授業（7月11日）に向けてのスケジュール確認 ①6月16日（月）LT・・・連携授業について（動画視聴）＆今後の流れを確認 思考ツールについて調べる ②6月19日（木）総合・・・思考ツールを使用して自己分析 ③6月23日（月）LT・・・中学校訪問の練習準備 ④7月3日（木）総合・・・中学校訪問の練習（本日） ⑤7月10日（木）総合・・・中学校訪問練習と当日の確認 ⑥7月11日（金）中学校訪問当日 午後 中学校の時間割で6眼目に訪問	
2. 当日の流れについて（授業）（50分授業）	
時間	役割分担 学習の流れ
7分	ア 全員 ア ア
5分	イウ
10分	エオ
5分	カ
10分	全員
10分	全員 （同会 ア）
3分	ア

作成したバタフライチャートを活用して、自己PR文を作成し、今後の進路選択に生かしてほしいことを中学生に伝える。

3. 7月11日（金）の流れについて

時間	活動
13:30	5時間目開始 美和高校の各中学校別の教室で準備
14:00	美和高校出発（バス乗車） ※美和高校のスリッパを持っていく ※外履の靴を入れる袋を持参する（ナイロン袋等）
14:15	七宝中学校到着 バス教室内に駐車（可・不可） 3年生の昇降口から入る
14:20	控室（図書室）で待機 ※トイレに行きたい人はこのタイミングで済ませます
14:35	担当する教室へ向かう ※私が担当するクラスは（ ）です。 3Aから3Dが3年生のクラス
14:45	6時間目授業開始
15:35	6時間目授業終了
15:50	バス乗車 美和高校へ移動
16:05	美和高校 到着 解散 ※ふりかえりシートへの記入は宿題とする。7月14日（月）に担任に提出。

【授業の様子】

中学校訪問 当日の様子



【事後のふりかえりアンケート結果から(高校生)】

○今回の中学生との連携授業において、自分が頑張ったことは何ですか。

- ・自分から積極的に話しかけ、バタフライチャートと自己PR文を書けている子、あまり書けていない子のどちらにもアドバイスをした。友達がアドバイスに困っていたので、他のグループにもアドバイスしにいった。
- ・困っていそうな子に話しかけて、こういうことを書いたらいいよって言ったり、何人かの子の好きなこと・得意なことを掘り下げたりすること。
- ・うまく書けていない生徒に対して自ら声をかけて自分の自己分析の例を出したり、一緒に考えたりした。
- ・中学生が話を聞いていて、わかりにくい言葉や、難しい言葉を使わないように工夫した。
- ・積極的に話しかけて質問に答えた。
- ・困っている子に寄り添って、自分ならこう書いたという身近な事例を出してわかりやすく説明した。
- ・中学生とがんばってコミュニケーションをとった。

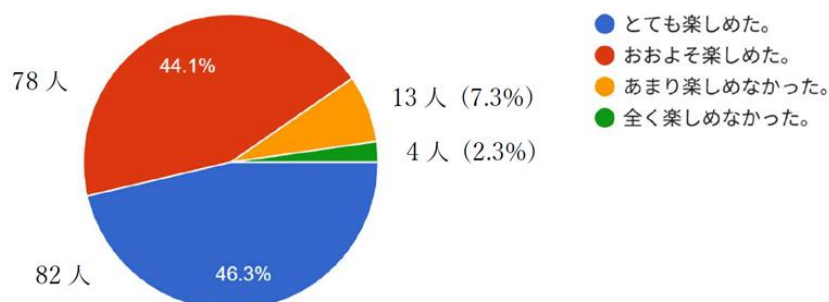
○今回の中学生との連携授業において、課題と感ずること(もっと頑張るべきだったこと)は何ですか。

- ・時間配分と生徒のサポートが難しかった。
- ・みんなが書いているとき、もっと歩き回って質問しやすいようにできたら良かった。
- ・中学生の人たちがバタフライチャートを書いている時に話しかけて、アドバイスしてあげられるようにしたい。
- ・班に分かれた時に会話を続けられなかった。コツなどの説明を上手く出来なかった。
- ・もっと美和高校との連携について理解を深めること。
- ・声をかけることが出来た人数が少ないこと。事前に補足説明や書き方のアドバイスを考えておく必要があったと思った。
- ・バタフライチャートの書き方が意外に難しかったから、もっと分かりやすい図でも良かったかもしれないと思った。司会が結構はやく終わって時間が余った。

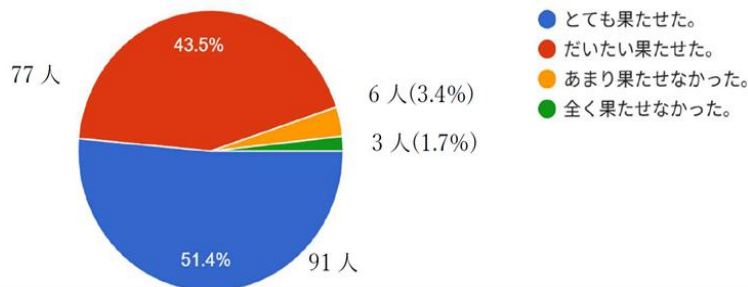
【アンケート結果】

1. 中学生との連携授業を楽しめましたか？

177件の回答

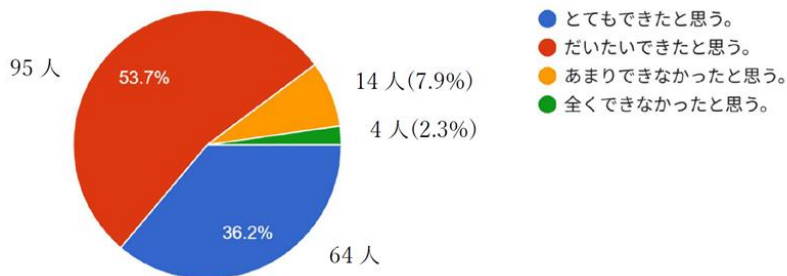


2.連携授業では、自分の役割(ア 司会、イウ 自己PR文の発表、エオ 思考ツールの説明、カ バタフライチャートの書き方)を果たせたと思いますか。

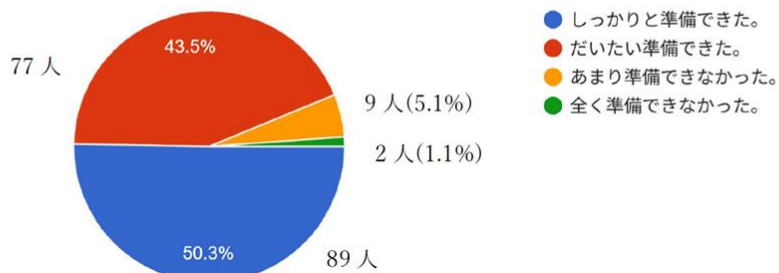


3.連携授業では、班全体として、中学生に「自己分析」について分かりやすく伝えられたと思いますか？

177件の回答



4. 連携授業当日に向けて、これまでの「総合的な探究の時間」でしっかりと準備をすることはできましたか。



【事後ふりかえりアンケート結果（中高教師）（第4回連携教育運営委員会資料から）】

○成果

- ・生徒が自分自身を見つめなおし、長所と短所を理解する良い機会となった。
- ・バタフライチャートを使って自己分析を行い、自己PR文の基礎を作成できた。
- ・グループでの活動により、生徒同士でアドバイスを受けながら進めることができた。
- ・高校生の声掛けや例示があり、中学生が理解しやすかった。
- ・バタフライチャートやクラゲチャートの説明が生徒の関心を引いた。
- ・多くの高校生が中学生にアドバイスしながら、一緒に活動を行い、積極的に関わっていた。
- ・高校生がしっかりと準備してきた様子が伝わり、活動に真剣に取り組んでいた。
- ・高校生が自己分析を中学生にアウトプットすることで、双方にとって学びの機会となった。
- ・事前に YouTube 動画で説明を受けたことで、生徒が心構えを持ち、目的を明確に理解できた。

○課題

- ・授業のテーマが当初の予定とずれていたため、目的が不明確になった。
- ・授業に入る担当教員にも事前打合せが必要だった。
- ・情報の整理分析や分析方法についての具体的な指導が不足していた。
- ・自己 PR 文の書き方について具体的なアドバイスが不足していたため、生徒が自己 PR 文を完成させるのに苦労した。
- ・指導案の内容が少なすぎて、授業時間を持て余すクラスがあった。
- ・高校生による授業の質にばらつきがあった。
- ・ワークシートやスライドの提供が遅かったため、授業準備に支障がでた。
- ・生徒が長所と短所を事前に考えておくなどの準備が必要であった。
- ・自己表現が苦手な生徒に対して、フォローが必要であった。
- ・生徒が自分の長所や短所を挙げることに困っていた。
- ・もう少し高校生に頼ることができればよかった。
- ・生徒によって作業の進み具合に差があり、全員が同じペースで進めることが難しかった。
- ・中学生と高校生の緊張をほぐすために、アイスブレイクの時間が必要だった。
- ・同じプラットフォームの学習支援アプリを使うことで、授業の質を高めたい。
- ・連携入試とのつながりが見えず、内容の適切さを判断するのが難しかった。
- ・高校生の制服等について指導が必要だった。

②共同ゼミ（連携機関：星城大学・名古屋文理大学・名古屋学院大学）

【日程】令和7年12月11日(木)

【目的】地域社会に関係する大学での学びに触れるとともに、生徒の進学意欲向上を図る。

【内容等】

1. 星城大学 経営学部 経営学科 教授 谷口 庄一

テーマ：「ご当地キャラクターを LINE スタンプで観光 PR に使うことの効果」



専用のアプリケーションを用いて、LINE スタンプを作成した。普段、アプリケーション内で何気なく使用しているスタンプには、宣伝効果があることを説明していただき、観光、まちづくりの視点から日常のツールを見つめなおす機会となった。

【生徒の感想】

- ・初めて LINE スタンプを作って、とても面白くて楽しかった。
- ・みんなでスタンプを作れて、こんな写真あったな、みたいな感じになれて楽しかった。
- ・いつも使っている LINE のスタンプが自分で作れると思うと色々可能性が広がった。
- ・友達とのコミュニケーションの幅が増えて良かった。

- ・とてもわかりやすく学生さんが説明してくださったので楽しくやることができました。
- ・ラインのスタンプが広告の代わりにもなっていたことを知った。とてもいい経験になった。

2. 名古屋文理大学 健康生活学部 フードビジネス学科 准教授 木村 亮介 テーマ：「美和高校の魅力を伝える動画を作成しよう」



映像の見せ方について学習した後、各班に分かれ iPad で2秒ずつの動画を10個撮影した。それらをつなぎ合わせて20秒の美和高校紹介動画を作成し、共有した。iPad のデフォルトアプリでも気軽に動画を作成でき、動画が与える効果大きいことを学んだ。

【生徒の感想】

- ・動画を素材から自分たちで撮って、それを編集した。一から作り出すのが楽しかった。
- ・改めて自分の学校を見直してみると、いつもと違った視点で見ることができた。
- ・もっと複雑で難しいと思っていたけれど、簡単に動画を作ることができた。
- ・大学生の方の動画などを見て、着眼点などの新しいひらめきがあった。
- ・動画を作るだけでなく文理大学の特徴を知ることができたり、教室の外を歩くことで新たな考えなどを見つけることができ非常に良かった。
- ・2秒でも色んな動画を繋げればちゃんとした動画になることが知った。

3. 名古屋学院大学 国際文化学部 准教授 工藤 泰三 テーマ：『新しい言語』を考えよう：言語の壁を乗り越えて」



Kahoot!を活用したグループ学習や講義を織り交ぜながら、世界に存在する言語の特徴や文化等について学習した後、エスペランサ語を英語と対比しながら分析した。外国語学習と世界平和とのつながりについても考えた。

【生徒の感想】

- ・エスペランサ語という今まで知らなかった言語を知ることができて楽しかった。
- ・自分が思っていたより言語の数が多くてびっくりした。眼科医が言語を作ったことに驚いた。
- ・英語が世界で使われている理由と、英語が母語話者の人のメリット、デメリットなどを学べた。
- ・エンペランスを英語と見合わせるのがパズルみたいで面白かった。
- ・言語を学ぶという事は学校の授業のようなものだと思っていたが、今回のゼミのような一面での言語は面白く、少しだけ語学が好きになった。
- ・英語だけでなくいろいろな言語に触れて学ぶことができたため、言語について興味をもつことができた。

3 大学との連携

今年度の計画

本校と高大接続連携協定を結んでいる名古屋文理大学・星城大学・名古屋学院大学に加え、地域政策学科等を有する東海地区の大学等と連携し、大学訪問やゼミ体験を実施する。大学での学びに触れ、生徒の高度な学びを促進するとともに、進学意欲を高める。

(1) 星城大学訪問

日時 2025年 7月31日(水) 10:00~15:30

目的 2学期に地域探究科で実施する「観光探究」に先駆け、地域政策と観光との関わりを大学の専門的な視点から学ぶ。また、「アンケート調査」に関する入門講義とワークショップを通じ、探究活動における情報収集力を高める。

参加者 地域探究科 1年生生徒 40名

内容 午前:星城大学 OG である名古屋市港区役所職員の講話を聞き、地域行政と観光との関わりと大学での学びについて知る。また、アンケート調査入門講座を受講し、アンケートの種類や目的別の調査方法、分析方法等について学ぶ。

午後:あま市で行われる地域の祭りである「あまつり」を想定し、来場者へのアンケート項目を考えるワークショップを実施する。大学生のアドバイスを受けながら、質問項目を考え、発表する。

当日の様子



生徒感想（一部抜粋）

- ・探究の情報収集でアンケートを作る時に活かそうと思った
- ・高校と大学で学んだことは社会に出てからも無駄にならないことがわかった
- ・自分にすごく役に立つ事ばかりだったので、すごく楽しかった。また機会があれば学びたいと思った。
- ・色々な視点からアンケート調査を考えたので、これからの探究に活かせそうだと思った。
- ・大学内に入って実際に講義を受ける体験は初めてだったので、とても楽しかった。講義で学んだアンケートの作り方を今後の地域探究で活かしたいです。大学もとてもいいところでした。とてもいい体験になりました！！

(2) 名古屋学院大学訪問

日時 2025年 7月30日(木) 10:00~14:00

目的 イングリッシュラウンジなど、語学の学びに特化した施設をもつ名古屋学院大学のキャンパスを訪問し、大学での語学の学びに触れる。また、語学に興味のある生徒の進学意欲を高める。

参加者 1・2年生公募生徒(外国語系統への進学を希望する生徒) 14名

内容

午前

- ①大学生によるアイスブレイクアクティビティ
- ②キャンパスツアー
- ③大学生と一緒に学ぶ英文法
- ④大学生と一緒に学ぶ英会話

午後

- ⑤教員による英語での探究活動

当日の様子



生徒感想 (一部抜粋)

- ・ オールイングリッシュの探究活動ということで最初はできるか不安だったけど、先生や大学生が優しくフォローしてくれたので、楽しく活動できた。
- ・ 語学に興味があるので、今日の活動は楽しかった。大学についてもっと調べてみようと思った。
- ・ 探究活動であまりしゃべれなかった。もっと英語の勉強を頑張りたい。
- ・ 大学生が教えてくれた TOEIC の文法がわかりやすかった。勉強して受検してみたい。

(3) 名古屋文理大学訪問

日時 2025年 8月6日(水) 9:30~13:00

目的 地域政策に関係する大学での学びに触れるとともに、名古屋文理大学で提供される多様な学びの内容を知ることで、生徒の進学意欲向上を図る。

参加者 1・2年生公募生徒 41名

内容

①情報メディア学科ミニ体験

- ・撮影スタジオ、レコーディングスタジオ
- ・学生プロジェクト紹介

②フードビジネス学科ミニ体験

- ・フードスタジオ、フードコーディネートのためのアトリエ、カフェ実習室
- ・フードビジネス学科の学生によるトークショー

③健康栄養学科ミニ体験

- ・健康栄養学科の学生による実習実験等の施設案内と授業説明

④大学のゼミ体験～地域政策編～

- ・地域政策ゼミの体験グループワーク
- ・情報収集・分析方法の種類と、グループインタビューによる情報収集の体験
- ・ブレインストーミングとグループ化による情報分析の体験
- ・地域を活性化するご当地グルメを考案するグループワーク体験

当日の様子



生徒感想（一部抜粋）

- ・ご当地グルメを考える活動が楽しかった。実際に商品化できるとうれしそう。
- ・管理栄養士に興味があるので、授業内容がわかってよかった。
- ・VRや3Dプリンタなど、いろいろな機器が揃っていてすごいと思った。
- ・スタジオが新鮮だった。いろんなことが学べそうな大学だと思った。

(4) 愛知大学訪問

日時 2025年 10月10日(金) 13:30~16:00

目的 地域社会に関係する大学での学びに触れるとともに、生徒の進学意欲向上を図る。

参加者 1・2年生公募生徒 11名

内容

- ・地域政策学部での学びについての講義
- ・大学生ガイドによるキャンパスツアー
- ・現役大学生への質問コーナー
- ・大学職員による大学説明

当日の様子



生徒感想（一部抜粋）

- ・愛大を志望しているので、キャンパスを直接見る機会があってよかった。
- ・大学生の、歯磨きのように習慣になるまで勉強する、というコメントが印象的だった。受験勉強を頑張ろうと思った。
- ・資格取得などの講座も充実していて、この大学で学びたいと思った。
- ・地域政策に興味があるので、学問の系統の違いなどを教えてもらえてよかった。

(5) 授業における大学との連携

本校は、名古屋文理大学・星城大学・名古屋学院大学の3大学と高大接続連携協定を結んでいる。3大学との授業における取組を一覧にまとめる。

【名古屋文理大学】

- ・普通科2年生 共同ゼミ(12月11日)
- ・地域探究科1年生 動画編集講座(1月16日)

【星城大学】

- ・地域探究科1年生 観光探究 「地域政策と観光」講座 (9月12日)
- ・地域探究科1年生 観光探究 フィールドワーク指導・引率(9月26日)
- ・地域探究科1年生 観光探究 成果発表会参観・指導(10月3日)
- ・普通科2年生 共同ゼミ(12月11日)

【名古屋学院大学】

- ・地域探究科1年生 七宝焼講座 「伝統工芸品」講座(10月17日)
- ・地域探究科1年生 七宝焼講座 成果発表会参観・指導(11月14日)
- ・地域探究科1年生 七宝焼シンポジウム指導(12月13日)
- ・普通科2年生 共同ゼミ(12月11日)

上記以外にも、文化祭での学びのブース出展、夏の大学訪問等にもご協力いただいている。

連携活動の様子



4 運営指導委員会・コンソーシアム会議・コーディネーターの取組

(1) 運営指導委員会

【運営指導委員会の体制】

本校の運営指導委員会は「地域に根ざした事業主、地域政策を専門とした大学教授、連携機関の教育長、NPO 法人代表等によって組織」し、以下の委員で構成される。

所属	氏名	主な実績
あま市商工会 顧問	山田 精二	「美和高マインド」顧問
あま市商工会 副会長	加藤 伸也	「美和高マインド」副センター長
名古屋文理大学	伊奈 和彦	同大学 情報メディア学科 教授 「美和高マインド」アドバイザー
星城大学	谷口 庄一	同大学 経営学部 教授 観光・まちづくり分野長 地域連携センター長 「美和高マインド」アドバイザー
あま市教育委員会	伊藤 克仁	教育長
大治町教育委員会	平野 香代子 梶浦 寿男	教育長(令和7年9月30日まで) 教育長(令和7年10月1日から)
NPO 法人ほっとネット・みわ	立松 愛唯	同法人 理事長 あま市市民活動センター代表 「美和高マインド」役員
愛知県教育委員会	加納 澄江	高等学校教育課 課長

なお、上記委員は、次の3点について、それぞれの専門的知見から学校に対して指導・助言を行う。

- (1) 「総合的な探究の時間」及び「学校設定科目」における教科等横断的な学びの充実
- (2) 学術的な観点と地域のニーズの両方に対応したカリキュラム開発の進捗
- (3) 生徒の活動と地域社会学科の目的・目標の整合性

【運営指導委員会の取組】

今年度は、名古屋文理大学での担当派の変更に伴い、伊奈和彦氏が新たに委員となった。

上記委員に変更の上、5月と1月に、全2回の運営指導委員会を実施した。

第1回運営指導委員会会議(5月16日)

5月16日(金)に実施。新規役員との情報共有のため、普通科改革支援事業の概要と今年度の予定について報告し、事業実施体制・内容についての指導・助言を受けた。

第2回運営指導委員会会議(1月23日)

1月23日(金)に実施。地域探究科における今年度の「総合的な探究の時間」及び学校設定教科での成果発表を実施し、次年度以降の計画についての指導・助言を受けた。

新規役員との情報共有のため、普通科改革支援事業の概要と今年度の予定について報告し、事業実施体制と内容についての指導・助言を受けた。

新学科のカリキュラムの報告と、今年度の「総合的な探究の時間」の成果発表を実施し、次年度以降の計画についての指導・助言を受けた。

(2) コンソーシアム会議

【コンソーシアムの体制】

本校は、スクールミッションの一つに「自らを律し、他者を思いやる心を持ち、他者と協働して地域社会の発展に寄与しようとする生徒の育成を目指す学校」であることを掲げ、令和3年度に他校に先駆け地域連携センター「美和高マインド」を設置し、地域と学校との連携の在り方を模索するなど、地域連携を特色・魅力の一つとしている。地域探究科の設置目的である「地域の未来の担い手を育成する」ことを実現するため、大学や地域の関係機関などで構成する地域連携センター「美和高マインド」を母体とするコンソーシアムを構築し、地域と学校がさらに連携・協働した教育活動を継続して実施する。

今年度は以下の役員で構成されている。

所属	氏名	主な実績
あま市商工会	船越 夏樹	あま市商工会 青年部長
あま市市長公室	片岡 篤志	企画政策課 課長補佐
あま市建設産業部	伊藤 善崇	商工観光課 係長
あま市市民生活部	加藤 昌也	人権推進課 係長
あま市社会福祉協議会	横井 達也	地域福祉課 主査
あま市教育委員会	山田 幹夫	生涯学習課 課長補佐
あま市教育委員会	水越 彰洋	学校教育課 主幹
大治町教育委員会	安立 豊子	学校教育課 主幹
美和高校同窓会長	調 有紀	美和高校学校評議委員
あま市観光協会	近藤 真由美	職員

【コンソーシアムの取組】

今年度は5月・10月・1月に全3回のコンソーシアム会議を実施した。協議内容は、以下の通りである。

第1回コンソーシアム会議(5月16日)

- ・今年度役員紹介
- ・新規役員を対象とした普通科改革支援事業についての周知
- ・昨年度までの取組報告
- ・今年度の地域との協働活動についての提案・予定の確認

第2回コンソーシアム会議(10月24日)

- ・生徒による地域活動報告
- ・普通科改革支援事業進捗報告
- ・今年度後半の地域との協働活動についての提案・予定の確認

第3回コンソーシアム会議(1月23日)

- ・今年度の地域活動報告
- ・生徒による地域探究の成果発表
- ・次年度に向けての連携の確認

【成果と課題】

地域探究科における「地域行政探究」「歴史探究」「観光探究」「商業探究」のテーマにおいて、コンソーシアム役員及び役員の所属する組織・団体から講師等を派遣いただいた。地域探究科生徒の市役所訪問等の場面でも、役員からご支援をいただいている。また、普通科の「総合的な探究の時間」に関しても、「職業人講話」「福祉実践教室」「共同ゼミ」等をコンソーシアム会議でご提案いただき、実施した。地域や大学と連携した授業についての提案と、それを形にしていく流れが定着しつつある。次年度以降は、今年度の反省をもとに修正を加え、さらに深い探究活動が実施できるようプログラムを改善していくことが課題である。

(3) コーディネーター

【コーディネーターの体制】

本校コーディネーター

所属	氏名
なし	近藤 純子

現在は週5日4時間程度、1名のコーディネーターが勤務している。

【コーディネーターの取組】

今年度の活動

- ・高校コーディネーター研修への参加
- ・コンソーシアム会議(年3回)・運営指導委員会(年2回)への参加
- ・令和7年度、地域探究科における「地域行政探究」「歴史探究」のプログラムの考案及び関係機関との連絡・調整
- ・令和7年度、地域探究科「商業探究」におけるインターン先の調整
- ・令和7年度、普通科における「福祉実践教室」「防災学習」のプログラムの考案及び関係機関との調整。
- ・次年度のプログラムに関する関係機関との打合せ

【成果と課題】

地域探究科1年生の「地域行政探究」に際しては、コーディネーター自身が行政相談員を務める総務省中部管区行政評価局と連携し、講師派遣及び成果発表会の参観等の調整に尽力した。また、生徒によるあま市役所訪問や提言のための市長との面会についても関連機関と密に連絡を取り合い、日程を調整し、実現した。その他、「歴史探究」及び「商業探究」について、自らの地域との繋がりや人脈を駆使し、多数の地域住民及び地域の企業と連絡・調整し、生徒の直接の取材活動やインターンシップの実施に大きく貢献した。

次年度以降のコーディネーターの配置について現時点で不透明な部分が多く、今後とも同様の体制で業務を行うことができるかが最大の課題である。

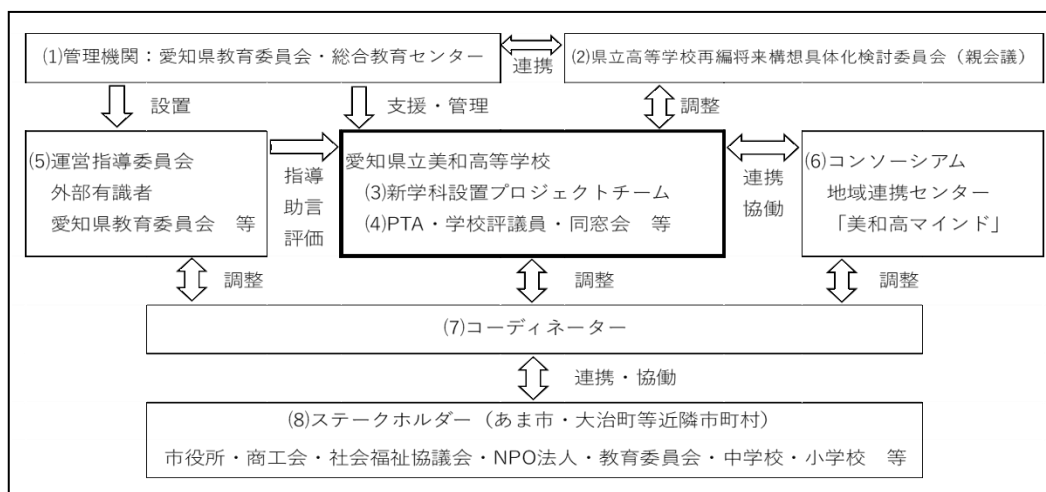
第3章 管理機関の役割

1 管理機関の取組

(1) 管理機関の役割と実施計画

管理機関における実施体制や事業の管理方法

【事業実施体制】 下図のとおり実施体制を構築する。



【事業管理方法】 次の方法により事業を管理する。

(1) 管理機関

愛知県教育委員会及び総合教育センターを管理機関とする。

(2) 県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会（親会議）

中高一貫教育具体化検討部会や実務者レベルのワーキンググループ等により、中高一貫教育と地域探究科の具体的な在り方を検討する。

(3) 新学科設置プロジェクトチーム

愛知県立美和高等学校に本プロジェクトチームを設置し、「地域探究科」への改編の実施主体とする。

(4) PTA・学校評議員・同窓会

「地域探究科」への改編に向け、既存の PTA、学校評議員及び同窓会からの意見を、特色・魅力あるカリキュラム及び教育方法の開発に取り入れる。

(5) 運営指導委員会

外部有識者及び愛知県教育委員会等を構成員とする。年に2回開催し、専門的見地から指導、助言、評価を行う。

(6) コンソーシアム（地域連携センター「美和高マインド」）

令和3年に愛知県立美和高等学校が設置した地域連携センター「美和高マインド」をコンソーシアムの母体とする。年に3回の定例会議を開催し、連携・協働体制を評価し、改善等に向けた協議を行う。

(7) コーディネーター

コーディネーターは全体を掌握し、必要に応じて調整を行い、学校と地域のステークホルダーによる連携・協働した教育活動の継続に努める。

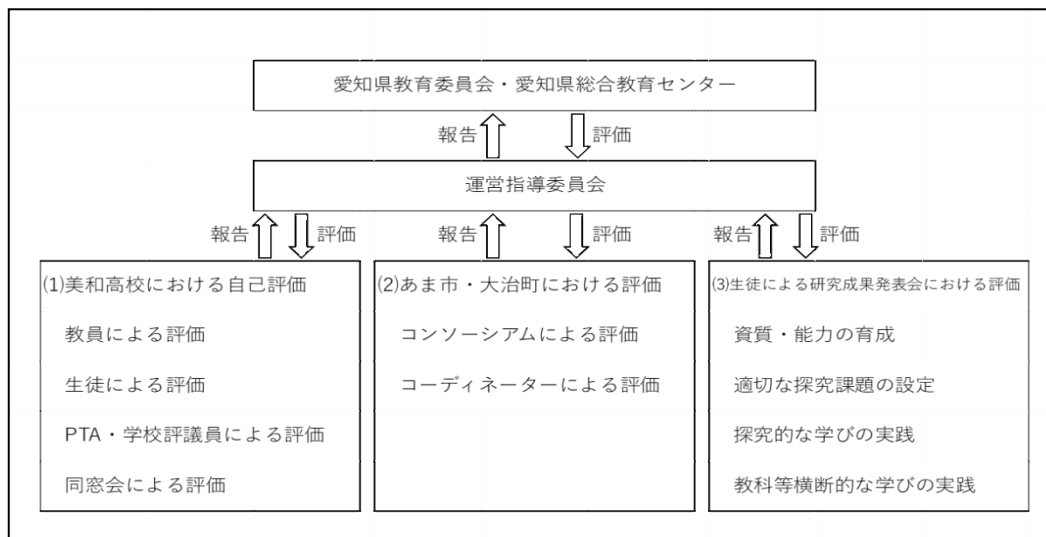
(8) ステークホルダー

地域連携センター「美和高マインド」構成員が所属する、あま市及び大治町等近隣市町村の関係機関等をステークホルダーとする。

管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

【事業全体の成果検証及び評価のための体制】

下図のとおり事業全体の成果検証及び評価のための体制を構築する。



【事業全体の成果検証及び評価の考え方】

次の方策において、定量的・定性的調査を行うことで、事業全体の成果検証、評価を行う。

(1) 美和高校における自己評価

美和高校において、教員、生徒、PTA、学校評議員及び同窓会を対象としたアンケートによる評価等を基に、本事業の取組について自己評価をまとめる。

運営指導委員会において、美和高校の自己評価の妥当性について検証する。

(2) あま市・大治町における評価

コンソーシアム構成員及びコーディネーターを対象に、生徒の資質・能力の伸長についてのアンケート評価等を実施することで、あま市及び大治町からの評価とする。

運営指導委員会において、あま市・大治町における評価の妥当性について検証する。

(3) 生徒による研究成果発表会における評価

年1回開催する生徒による研究成果発表会について、生徒、教員、コンソーシアム構成員、コーディネーター、地域住民及び愛知県教育委員会等が参加し、生徒の学びの深まりについて、次のような観点で評価する。評価結果等については、ウェブページに掲載する。

- ・生徒の研究が、資質・能力の育成に資する内容になっているか
- ・生徒の探究課題の設定が適切な内容になっているか
- ・生徒による探究的な学びが実践されているか
- ・生徒による教科等横断的な学びが実践されているか

(4) 管理機関における事業全体の成果検証及び評価

(1)、(2)及び(3)の3つの方策を踏まえた運営指導委員会からの検証報告を受け、事業全体の成果検証、評価を行い、他校での取組や事業を踏まえ、改善の指針を学校に示す。

(2) 管理機関による活動実績

【管理機関の取組】

美和高校は、あま市・大治町の中学校との中高一貫連携教育を進めていることから、導入のための検討部会やワーキンググループを開催し、市町の教育委員会や中学校教員からの意見も取り入れながら、中高一貫教育と地域探究科の具体的な在り方を一体的に検討している。昨年度から地元中学生と対話型の探究活動をはじめており、成果と課題を整理し、今後の地域探究科での活動につなげていく予定である。

学校内においては、地域探究科設置プロジェクトチーム(探究推進部)の教員が業務の中心を担い、教育委員会と連携しながらカリキュラムや教育内容を検討した。PTA・学校評議員・同窓会からも丁寧に意見を聞き取り、学科の改編が学校にとって望ましいものとなるように、保護者・地域・同窓生の思いを大切に、カリキュラム作成を進めている。

専門的な知見から学科の在り方を評価するため、外部有識者及び愛知県教育委員会等を構成員とする運営指導委員会を5月・1月に開催した。5月の運営指導委員会では、生徒の活動と地域探究科の目標の整合性について、さらに学術的な観点と地域のニーズの両方に対応したカリキュラム開発の進捗具合について指導と助言を行った。また、1月の運営指導委員会では、主に次年度以降のカリキュラムについての指導と助言を行った。

さらに、地域との協働体制を構築するため、令和3年度に美和高校が設置した地域連携センター「美和高マインド」をコンソーシアム化し、5月・10月・1月に定例会議を開催して連携・協働体制を評価し、改善等に向けた協議を行った。

コーディネーターの近藤氏には、地域との連携・協働による教育活動を継続し、更に発展させるために高校と各連携機関との調整役として尽力していただいた。加えて、文部科学省主催の高校コーディネーター研修での学びを学校現場に還元することで、教員の探究活動に対する意欲向上につなげている。

【管理機関における事業全体の成果検証、評価】

美和高校は、令和3年度に設立した地域連携センター「美和高マインド」を核として、地域密着型の学校として地域と深く交流している。地域探究科の新設に向けて、根付いている“横”の地域基盤を生かしつつ、大学や中学校との“縦”の連携も強化することにより、様々な分野で地域連携の取組を実施することができた。中高連携教育の一環として近隣の6中学校を訪問し、対話型の探究活動を進めている。

9月には、文部科学省主催の指定校発表会において、地域探究科の取組を全国の指定校担当者に向けて発表した。また、全国各地の自治体から視察の依頼を受けており、地域探究科のカリキュラム編成や地域連携の具体的手法、運営体制等について説明するとともに、授業見学や意見交換を実施した。これらの視察対応を通して、都市部における普通科改革の好事例として注目されており、他自治体の取組の参考事例として活用されている。

今年度も、コンソーシアム定例会議と運営指導委員会を同日に開催し、運営指導委員がコンソーシアムに参加できる体制を整えたことで、多くの関係者が一堂に会し、課題を共有する機会を創出した。また、コンソーシアム定例会議では、生徒による成果発表も実施した。

コーディネーターの近藤氏には、地域との連携・協働による教育活動を継続・発展させるため、高校と各連携機関との調整役として尽力していただいた。さらに、文部科学省主催の高校コーディネーター研修で得た学びを学校現場に還元したことで、教員の探究活動に対する意欲向上にもつながった。

【管理機関による支援体制(予算・人員配置等)】

文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」の委託費により事業を実施している。国との調整役として、教育委員会が予算の執行状況を管理・監督しながら円滑な事業実施を支援した。

高等学校と関係機関等との連携協力を担うコーディネーターを任用する仕組みとして「愛知県立高等学校連携協力コーディネーター設置要綱」を制定し、高校にコーディネーターを配置した。

【国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組】

愛知県では、「普通教育を主とする学科」のうち普通科以外の学科(いわゆる普通科新学科)を設置し、普通科改革の推進に資する実践および研究を行うため、「普通科改革に係る研究指定校設置要綱」を制定した。これに基づき、今年度までの指定校2校を研究指定校として位置付けている。本研究を通じて、普通科改革の趣旨に沿った特色化・魅力化の実現を目指し、カリキュラムの開発や実施体制の構築等に関する研究を継続して進めていく。

第4章 今年度の成果と次年度に向けて

1 本年度の成果

(1) 本年度の成果

今年度は計画に従い、地域探究科を開設した。主な成果と課題を下の成果概要図にまとめている。

(2) 成果概要図

管理機関名：愛知県教育委員会

令和7年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

【愛知県立美和高等学校】地域探究科（令和7年度設置）

地域と自分の美しさを知り 人と人の和の力で 未来を拓く生徒を育む

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】

～地域とともに未来を築く新しい人材を育てる～

【連携指導委員会】
外部有識者
愛知県教育委員会 等

【コンソーシアム】
市役所 市役所
NPO法人 教育委員会
中学校 小学校 観光協会 等

【コンソーシアム】
あま市・大治町等
商工会 社会福祉協議会
NPO法人 教育委員会
中学校 小学校 観光協会 等

【コンソーシアム】
東海地区の大学
愛知大学 名古屋文理大学
星城大学 名古屋学院大学 等

地域で学ぶ機会を確保

地域で学ぶ機会を確保

令和7年度
年3回のコンソーシアム会議
年2回の運営指導委員会

【地域探究科設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要】

地域と協働し、生徒を軸とした地域活性化に取り組みとともに、生徒の物事を肯定する力と不安定な時代を生き抜く力を育み、地域の未来の担い手を育成するカリキュラムを編成すること。

七宝焼のように、7つの輝く資質・能力の育成します

課題発見力 情報活用能力 問題解決力 対話力 実践力 思いやり 豊かな人間性

美を知る1年生 和をつくる2年生 未来を拓く3年生

総合的な探究の時間(12単位) 探究活動

学校設定科目(6単位) フィールドワーク

教科等横断的な学び 教科を横断した探究活動の基礎となる知識

【成果と課題】

成果
全国的な知名度が決して高くはない地域で地域資源をテーマとして探究を実施する中で、高校生に興味と主体性をもって探究させるプログラムを組み立てることが、今年度の大きな課題であった。本校の教育活動を深く理解し、積極的に協力を申し出てくださる地域住民や連携機関・大学の力を借り、全てのテーマにおいて地域及び大学から講師を派遣いただき、成果発表会にも同席いただくことができた。地域住民と直接交流する機会をもったことは、これまで興味をなかつた分野のテーマにおいても、高校生の積極性を引き出すのに十分な効果があったようにある。地域行政や伝統工芸品など難易度の高いテーマにおいても、活発に探究する姿が見られた。探究活動に取り組みむ中で興味や湧き、将来地域の発展に関わりたいという生徒が複数出てきたことが、今年度最大の成果であったと考えている。

課題
全てのテーマで地域や大学と連携するため、打合せや連絡を取り合う時期が重複し、諸手続きが煩雑になる場面があった。校内・校外の連絡体制を整えていくことが今後の課題である。また、連携する地域や大学との相互利益につながる探究活動となるよう、各機関と相談しながらプログラムを随時更新していくことも必要である。

【取組状況】

★地域探究科の開設

- ① 地域探究科の設置
- ② カリキュラムの運用開始
- ③ 地域と連携した授業の実践
- ④ 地域のニーズを把握する機会の継続

【令和7年度の目標】

① 地域探究科の設置
・令和7年度4月設置済
・新入生入学（定員40名を充足）

② カリキュラムの運用開始
・総合的な探究の時間4時間
学校設定科目2時間
運あたり計6時間の探究活動実践
・大学と連携したプログラムを運用

③ 地域と連携した授業の実践
・テーマごとに地域の関連機関と連携
・地域から講師を招いて講座を実施
・成果発表会への地域住民の参加

④ 地域のニーズを把握する機会の継続
・地域連携センター（美和高マインド）
を通してのコンソーシアム会議の継続
・授業の打合せや成果発表会の機会に
地域からの意見を集約

【成果と課題】

全国的な知名度が決して高くはない地域で地域資源をテーマとして探究を実施する中で、高校生に興味と主体性をもって探究させるプログラムを組み立てることが、今年度の大きな課題であった。本校の教育活動を深く理解し、積極的に協力を申し出てくださる地域住民や連携機関・大学の力を借り、全てのテーマにおいて地域及び大学から講師を派遣いただき、成果発表会にも同席いただくことができた。地域住民と直接交流する機会をもったことは、これまで興味をなかつた分野のテーマにおいても、高校生の積極性を引き出すのに十分な効果があったようにある。地域行政や伝統工芸品など難易度の高いテーマにおいても、活発に探究する姿が見られた。探究活動に取り組みむ中で興味や湧き、将来地域の発展に関わりたいという生徒が複数出てきたことが、今年度最大の成果であったと考えている。

【課題】

全てのテーマで地域や大学と連携するため、打合せや連絡を取り合う時期が重複し、諸手続きが煩雑になる場面があった。校内・校外の連絡体制を整えていくことが今後の課題である。また、連携する地域や大学との相互利益につながる探究活動となるよう、各機関と相談しながらプログラムを随時更新していくことも必要である。

2 今後の展望

今後の展望

【地域探究科について】

地域探究科については、当初の計画の通り、「美を知る1年生」「和をつくる2年生」「未来を拓く3年生」の学年テーマのもと、地域や大学と連携しながら探究活動を進めていく。次年度については、新1年生は今年度のプログラムに修正を加えたものを実施していく。新2年生については、地域とつながることを重点に、イベントの企画や実践を行う探究活動を実施する予定である。

2年生年間予定



来年度は、あま市で行われるシルバーカレッジの講座及び、あま恵寿荘でのイベントを、地域探究科2年生が企画・運営し、実施する方向で調整している。また、3月には本校にて、生徒主催の地域イベントを実施する計画となっている。再来年度の新3年生については、自己課題の探究及び進路探究を実施していく。いずれも本校では初めての試みであるため、校内での事前の準備と調整が重要となってくる。生徒が自信をもって学校の外へと向かっていけるよう、探究活動のさらなる充実とともに、校内外の連携機関との連絡・調整ルートを確立していきたい。また、イベント企画・実践における探究活動の評価も初めてのこととなるため、ルーブリックの作成や評価素材・評価方法についても今年度中に整えていく。

地域探究科の探究活動には現在5名の教員が関わっているが、週6時間の探究ということもあり、探究活動の補助や連携機関との連絡・調整、探究活動の評価など、これまでになかった多岐に渡る業務が生まれてきている。次年度以降、新入生入学とともに複数学年に跨ることになる探究のカリキュラムが円滑に運用されるよう、運用方法や反省点等を次年度以降の担当者に引き継いでいくことも重要である。

FM AICHI twitter



市民活動センター ニュースレター



広報あま

カメラルポ

6/30

**美和高校生が提言書を
市長へ提出しました**



美和高等学校に「地域密着の高校をめざす」を教育目標の一つとして、今年度開設された地域探求科の1年生の皆さんがあま市を中心とした近隣地域行政について学習しました。
この探究活動を通じて生徒たちは8班に分かれてそれぞれテーマを設定し、提言書を作成して市長に提出しました。

2025
9
No.186

広報あま




備えよう





市民が動きます！



ご購読はこちら

地域と自分の美しさを知り 人と人の和の力で 未来を拓く生徒を育む

美^み和^わ高^{こう} **M**akes **I**nnovators with **N**eighbors **D**ramatically

～地域とともに 未来を革新する人材を育てる～

発行日 令和 8 年 3 月
発行者 愛知県立美和高等学校
〒490-1295 愛知県あま市篠田五ツ藤 1 番地
電話 052-443-1700 FAX 052-442-3917

み～くん



美和高校マスコットキャラクター

ち～たん



地域探究科マスコットキャラクター